

◆平均値と散らばり



下の表は、6年1組と6年2組の男子のソフトボール投げの記録です。記録がよいといえるのはどちらの組でしょうか。

ソフトボール投げの記録（1組）

番号	きより(m)	番号	きより(m)
1	28	8	29
2	36	9	28
3	27	10	35
4	28	11	40
5	37	12	26
6	30	13	21
7	29		

ソフトボール投げの記録（2組）

番号	きより(m)	番号	きより(m)
1	24	8	36
2	22	9	35
3	24	10	35
4	40	11	36
5	18	12	32
6	35	13	33
7	19	14	31

① それぞれの組のデータの平均値を求めて比べましょう。

1組… **約 30.3** m

2組… **30** m

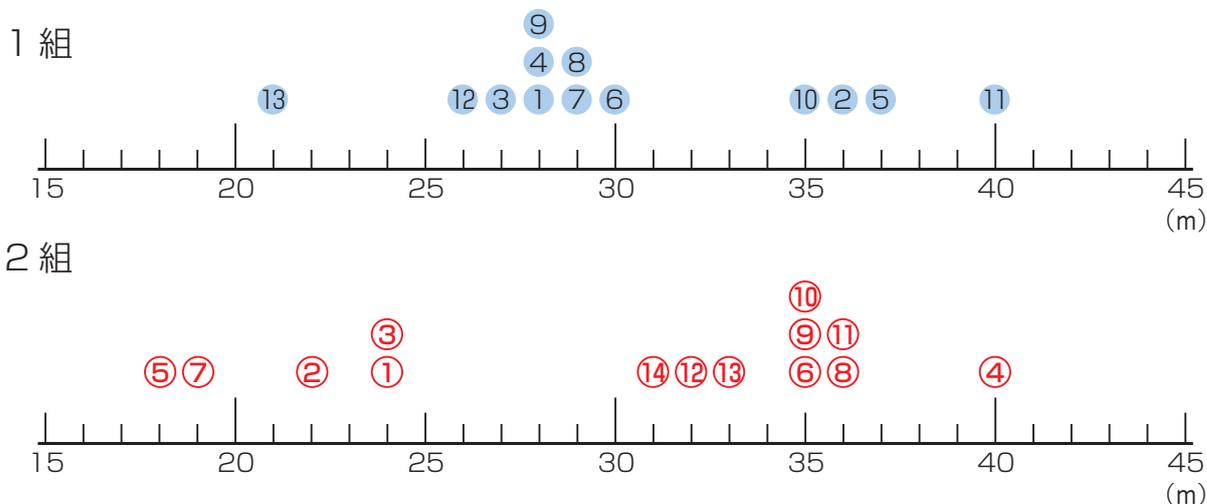
データの個数が異なるときは、平均値で比べることがあるよ。

② 平均値で比べると、**1**組のほうが記録がよいといえます。



1組と2組のデータの散らばりの様子を調べましょう。

① 1組と同じようにして、2組のデータを数直線に表しましょう。



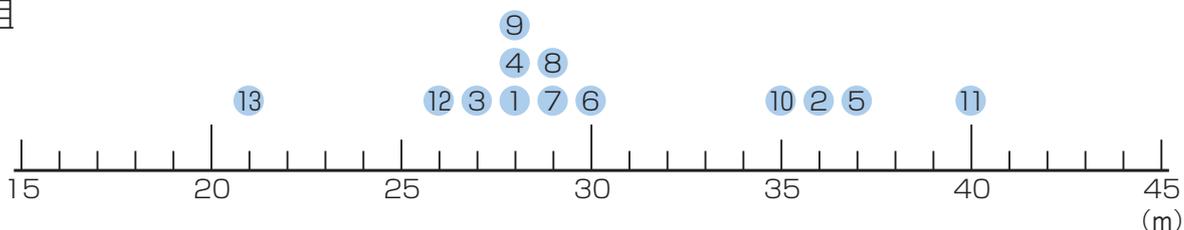
② 上のように、1つ1つのデータを点で表して、数直線のめもりに合わせて並べた図を、**ドットプロット**といいます。



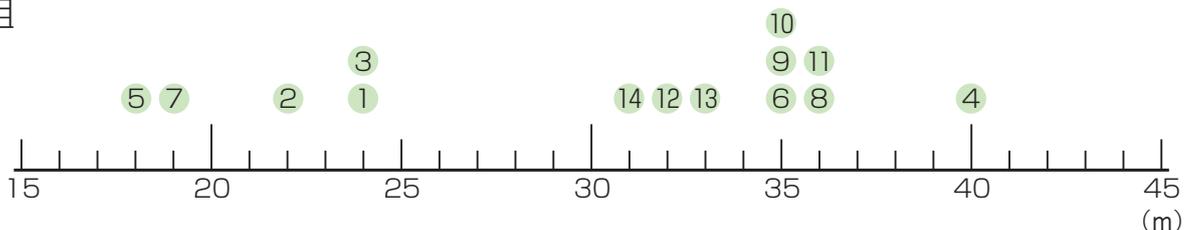
◆代表値

1組と2組のデータをいろいろな見方で比べましょう。

1組



2組



① データの中で最も多く出てくる値を **最ひん値** といいます。

その値は、1組が **28** m, 2組が **35** m です。

② データを大きさの順に並べたとき、中央にある値を **中央値** といいます。

その値は、1組が **29** m, 2組が **32.5** m です。

2組のようにデータの数が偶数のときは、まん中の2つの値の平均値を求めよう。



③ 平均値、最ひん値、中央値のように、データ全体の特ちょうを代表する値を、**代表値** といいます。

④ 最ひん値で比べると、**2** 組のほうが記録がよいといえます。

⑤ 中央値で比べると、**2** 組のほうが記録がよいといえます。

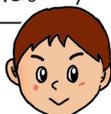


◆度数分布表，柱状グラフ

「データの見方 ②」のドットプロットを見て、
1組と2組のソフトボール投げのデータを，表やグラフに整理しましょう。

- ① 投げたきよりを5mごとに区切り，それぞれの区間に入る人数を下の表に書きましょう。

15m以上 20m未満
15m以上20m未満には，20mは入らないね。



ソフトボール投げの記録 (1組)

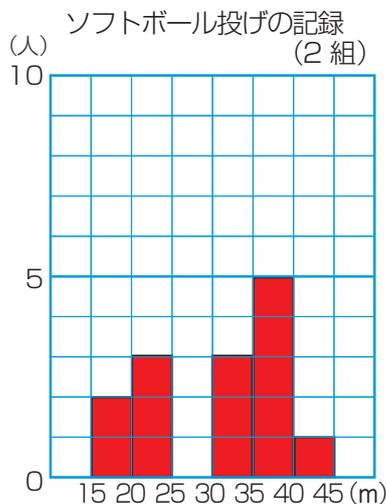
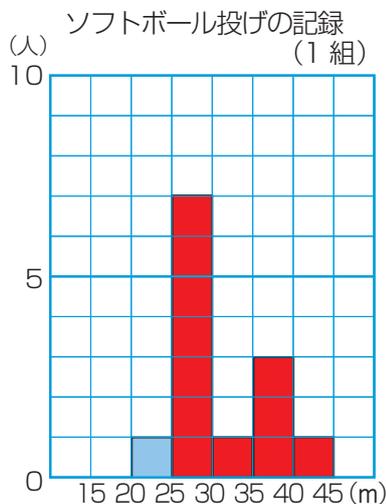
きより(m)	人数(人)
15以上～ 20未満	0
20～ 25	1
25～ 30	7
30～ 35	1
35～ 40	3
40～ 45	1
合計	13

ソフトボール投げの記録 (2組)

きより(m)	人数(人)
15以上～ 20未満	2
20～ 25	3
25～ 30	0
30～ 35	3
35～ 40	5
40～ 45	1
合計	14

- ② データをいくつかの区間に区切って整理した表を，**度数分布表** といいます。
また，その区間のことを **階級** といい，それぞれの階級に入るデータの個数を **度数** といいます。

- ③ ①の度数分布表を，散らばりの特ちょうがとらえやすくなるようにグラフに表しましょう。



- ④ 上のようなグラフを，**柱状グラフ** といいます。